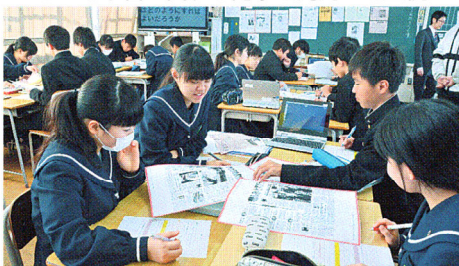


8・6水害に関する記事を見比べる生徒



武岡中学校(鹿児島市)

書き手の意図を推測

実践校2年目。朝読書の時間に新聞を読んだり、学級活動で気になる記事を発表したりするなどの取り組みを続ける。鯨島諷教頭は「文章を読むことを嫌がらなくなった。内容を読み解く力へと発展させるのが次の段階」と語る。

1月に「研究授業があり、2年生技術科の「情報モラル」の授業で新聞を活用。1993年に鹿児島を襲った8・6水害に関する数々の新聞記事を題材にし、

年ごとに変化する内容や書き手の意図を読み取った。生徒は記事を見比べ、節目の年は大きな抜いになることや、年数がたつと防災対策を紹介する記事が増える傾向があると指摘。近年、災害時に会員制交流サイト(SNS)でデマが流れる現状についても学んだ。菅野美沙希さんは「受け取った情報を自分なりに理解することも大切だと思った」と話した。

(上村元大輔)

目当ての漢字を探し、紙面に目を凝らす児童



柏原小学校(さつま町)

課題設け読解力磨く

研究実践を始めて3年目。毎月第1水曜日の朝、児童が新聞に触れる「NIEタイム」を初年度から続けている。発達段階に合わせた課題を設け、読み解く力や表現力を磨く。

2月6日は3年生24人が、同じ部首の漢字を探すゲームに熱中した。俳、倍など「イ(にんべん)」で18字を集めた本田聖王君は「サッカーの記事が好き。5年生は、9人が日替わりで気になるニュースを発

表する。当番の山下七海さんは、さつま町で作られている宮ヶ城人形の記事を紹介。「実物を見てみたい。地元の町や自然の話題に興味がある」と話した。

授業参観に「ファミリーフォークス」を取り入れるなど、家族で新聞に親しむ取り組みにも力を入れてきた。担当の若松明美教諭(36)は「新聞を広げること」に意欲的になっていく」と手応えを語った。

(本坊マナ)